

釜石発 住民の足を守るために

オンデマンドバスお披露目



仮設住宅に暮らす人のための予約型乗り合いバス＝「オンデマンドバス」が10日から釜石で運行されます。オンデマンドバス

の運行は釜石市とトヨタ自動車を実験的に行うもので中心市街地から離れた栗林・鶴住居地区の仮設住宅団地と中心市街地や県立釜石病院を結びます。10人乗りの2台のバスは「にこにこバス」と名づけられ、事前に登録した利用者の予約を受けてからルートや運行時間を決定。予約した人とその乗車場所は車内の端末に表示され、利用者に配布するカードのQRコードで乗車を確認します。(10/9 ニュースエコーより)

被災地に学習の場を提供

山田町ゾンタハウス

津波により甚大な被害を受けた山田町。町内にあった学習塾が被災したり、狭い仮設住宅での勉強を強いられたり震災前後で子ども達の家学習の場は激変。そんな中、去年9月にオープンしたのが「山田町ゾンタハウス」です。社会奉仕団体「国際ゾンタ」の財政支援により、町内に僅かに残っていた空き店舗を借りて改装。更にNPOを立ち上げ運営に当たることによって子ども達待望の自主勉強の場が出来上がりました。平均一日20人、テスト前には40人がこの施設で勉強しています。山田町ゾンタハウス竹内範子代表は「誰かがちょっと手助けをすることで子ども達はかなり伸びることが出来ると思う。出来たら長くこの場所で運営できたらと思っています。」と話しています。(10/9 ニュースエコーより)



みやこ災害FM発

「さんりく元気ラジオ」

ワイドステーション内 毎週水曜午後3時半～

みやこ災害FMの鈴木清恵さんが、13日と14日に開催される「宮古あきんど復興市2012秋」について伝えてくれました。これは宮古市の中心商店街の皆さんが行うイベントで「さんまの七輪焼」や「芋の子大鍋」のお振舞いのほか、街かど音楽祭や子供ひろば等盛りだくさんの内容。多くの人に来てもらい、復興に向けた元気を発信したいと話していました。



宮古発

三陸鉄道列車内で取締役会



復旧工事が急ピッチで進む三陸鉄道で、取締役会が行われ、工事の進捗状況や今年度上期の利用状況などが報告されました。

取締役会は車窓から震災の被害や復旧の状況を確認してもらおうと宮古から小本まで運行した三陸鉄道の車両で行われました。取締役会では、平成26年4月の全線再開に向けた復旧工事が順調に進んでいることが報告されました。一方、今年度上期の利用客については陸中野田～田野畑間の再開により前の年度を45%上回り、収支も改善。今年度の見通しについては、修繕費などがかさむことから2億1100万円余りの経常損失となる見込みです。(10/10 ニュースエコーより)

宮古発

「元気発信！ラジオ希望堂」

IBCラジオ 毎週土曜午後0時40分～

被災地で前向きに取り組んでいる人の姿を紹介する番組。今週(10/13)は、宮古市田老のグリーンピア三陸宮古の敷地内にある「田老サポートセンター」の所長、松本勝徳さんにセンターの活動の様子や課題などを伺います。



「IBC復興支援室だより」facebookでも発信中
詳細はIBC公式サイトから <http://www.ibc.co.jp/>
IBC復興支援室事務局 019-623-3122